

(3) 家庭や地域との連携による活用

「私たちの道徳」は、学校に備え置くのではなく、家庭に持ち帰って、家の人と一緒に話し合うなど家庭や地域での活用もねらいとしている。

家庭に持ち帰らせるに当たっては、例えば、学校・学級通信等を通じて家庭での活用の仕方等を伝えたり、保護者会などで、家庭における「私たちの道徳」の活用の仕方を説明したりすることで、家庭での効果的な活用が促進されるような働き掛けを積極的に行うようにしたい。

「私たちの道徳」には、家庭や地域で話し合ったことを書き込んだり、家の人が書き込んだりする欄が多く設けられており、家庭や地域で広く活用できる。

例えば、「私たちの道徳」を家庭や地域で活用することで、学校における道徳教育への理解を深め、学校と家庭や地域が協力し合って地域全体で道徳教育を行うことができる。

また、「私たちの道徳」を介して、児童生徒が家庭や地域の人と共に活動したり、語り合ったりする機会を設けることができる。

このように、「私たちの道徳」を活用して、学校と家庭や地域が連携して道徳教育を行い、児童生徒の豊かな心を育んでいくことが望まれる。

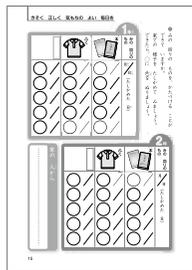
なお、家庭や地域での活用にあたっては、家庭や地域の様々な実情を考慮する必要がある、学校は日頃より家庭や地域との連携を図って教育活動を行うことが大切である。

活用例

● 整理整頓をしっかりとできるように

一・二年（十五ページ）

目当てをもつて、身の回りの整理整頓を行えるようにするために、十五ページのチェックシートを活用して、自己点検する。教師と家の人が学校や家庭での児童の様子を共通理解するとともに、家の人からの励ましの言葉などを生かしながら、整理整頓の習慣化を図るようにする。

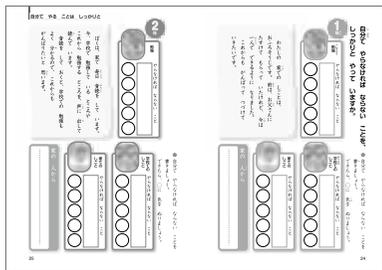


小学校1・2年

● 自分がやるべきことをしっかりとできるように

一・二年（二十四・二十五ページ）

学校でやるべき仕事、家庭で担っている仕事をしっかりと行えるようにするために、二十四・二十五ページを活用することができる。教師と家の人が学校や家庭での児童の様子を共通理解するとともに、家の人からの励ましの言葉などを生かしながら、やるべきことをしっかりと行おうとする意欲を高めていくようにする。



小学校1・2年

● 生活を支えてくれた高齢者に感謝の気持ちをもつように

三・四年（八十四・八十五ページ）

生活を支えてくれた高齢者についての理解を深め、感謝の気持ちをもつようにするために、八十五ページの書き込み欄を活用して地域の高齢者への取材活動を行い、自分たちの豊かな暮らしは、高齢者のこれまでの努力に支えられていたことに気付くようにする。



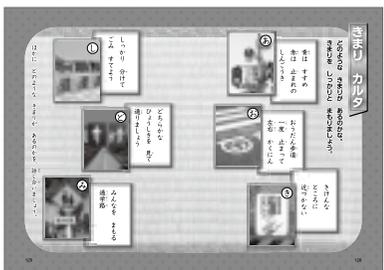
小学校3・4年

● 地域のきまりを知り、守れるように

一・二年（二八・二九ページ）

長期休業前などに、一二八・一二九ページを読んで、地域には、いろいろなきまりがあることを知り、きまりへの関心を高める。

休業中に、地域にどのようなきまりがあるのかを見つけて、きまりに関わるカルタを一つ以上作ってくるようにする。学期が始まったら児童が作成したきまりカルタでカルタ取り大会をしたり、カルタを公民館など地域に掲示したりする。



小学校1・2年

● 家族の役に立てるように

五・六年（二五九ページ）

一五九ページの書き込み欄を活用して、家族の一員としての役割や家族へのメッセージを記入し、家族の一員としての自覚をもつて、進んで家族の役に立つようとする意欲を高める。



小学校5・6年

● 道徳的な成長を実感できるように

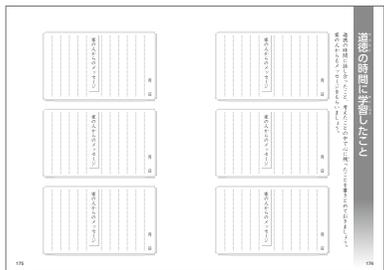
一・二年（二五八・二五九ページ）

三・四年（二七四・二七五ページ）

五・六年（二九〇・二九一ページ）

道徳の時間の学習内容についての書き込みを基に家庭で話し合い、家の人からのメッセージをもらう。家の人から励ましの言葉などをもらうことで、道徳的価値への意識が高まり、さらなる実践意欲へとつなげることができる。

学校と家庭が連携して継続的に活用する。



小学校3・4年

家庭や地域との連携による活用事例

1・2年 P.82~87

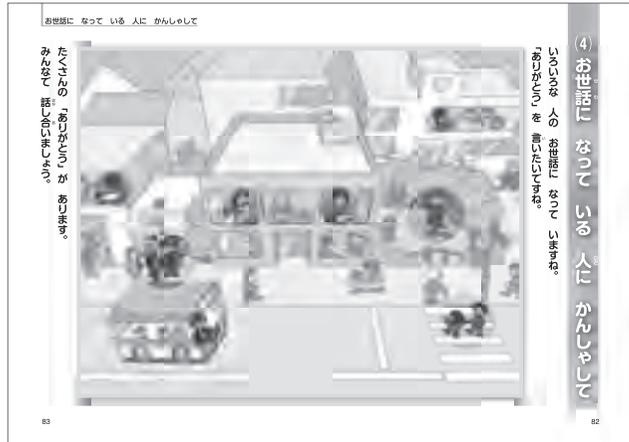
2 人とともに

(4) お世話になっている人にかんしゃして

学習の流れ

1 道徳の時間

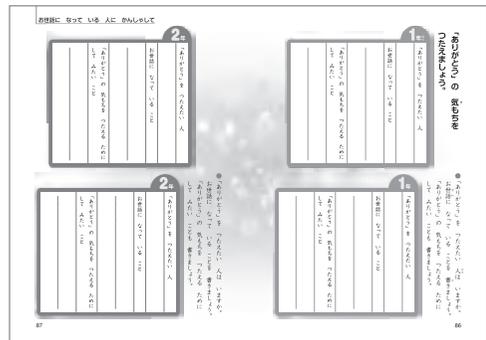
① 八十二・八十三ページを見て、いろいろな人の世話になっている場面を考え、「ありがとう」を伝えたいことについて話し合う。



P.82~83

◆ポイント

日々の生活が、いろいろな人の支えによって成り立っていることを考え、世話になっている人に感謝の気持ちを伝えようとする意欲をもつ。



P.86~87

2 家庭や地域での学習（道徳の時間に考えたことを生かして）

- ① 「ありがとう」の気持ちを伝えるためにしてみたいことを家庭や地域で実践する。
- ② 実践したことを振り返り、八十五ページを参考にして、世話になっているいろいろな人に「ありがとうカード」を作って渡す。



P.85

◆ポイント

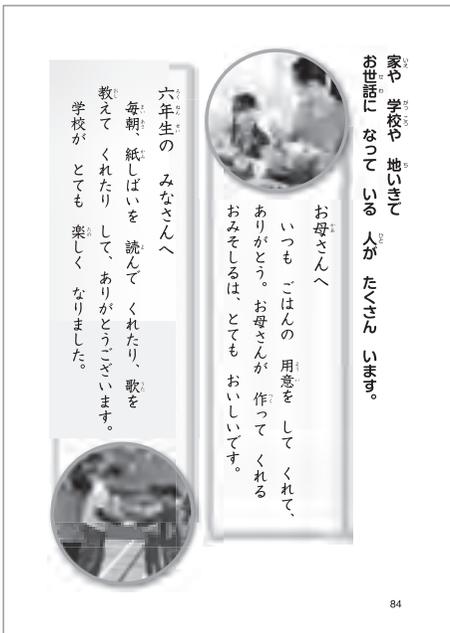
感謝の気持ちを実践で表すようにする。また、児童が実践したことに對して、家庭や地域の人から感想などをもらうようにする。そのことによって、児童は感謝の気持ちが相手に伝わることの喜びを感じることができ、いろいろな人に感謝の気持ちを伝えようとする意欲を高めていく。

3 生活科

- ① 自分自身の成長を振り返り、家庭や地域の人を招いて、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを伝えるための発表会を行う。
- ② これからの生活において、自分の成長のためにどのようなことをしていきたいと思っているのか、自分の願いや思いを発表する。

◆ポイント

八十二から八十五ページを参考にしながら、自分の成長を支えてくれた人々の存在に気づき、自分の成長と感謝の気持ちを伝える内容の発表会を行って、今後の生活への意欲を高める。



P.84

家庭や地域との連携による活用事例

3・4年

P.136~147

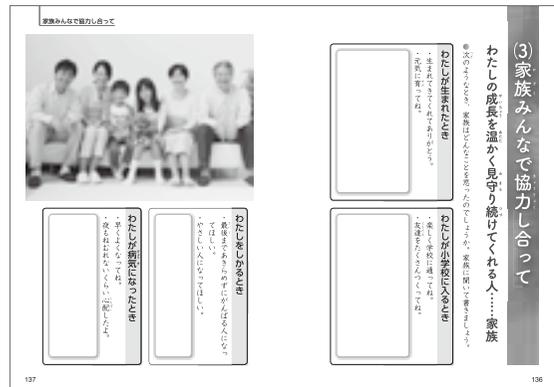
学習の流れ

1 家庭での学習

①自分が成長してきた様々な場面で、家族がどのようなことを思っていたのかを聞き、一三六・一三七ページの書き込み欄に書き込む。

◆ポイント

様々な関わりの中で、自分の成長を見守り、育ててくれた家族の思いを感じ、家族に大切にされ、支えられてきたことに気付く。



P.136~137

4 みんなと関わって

③家族みんなで協力し合って
共に助け合って生きる

2 道徳の時間（家庭での学習を生かして）

- ①一三六・一三七ページに書き込んだ家族の思いを発表し合う。
- ②読み物資料「ブラッドレーのせい求書」を読んで話し合う。
- お母さんが皿の横に四ドルのお金を置いたとき、ブラッドレーはお母さんからの請求書を読んだとき、ブラッドレーはどのような気持ちだったか。
- 今日まで、家族にしてもらったことはどのようなことがあるか。
- ③家族のことを一三九ページにまとめる。

◆ポイント

家庭で聞き取ってきた家族の思いを交流し合うとともに、読み物資料を通して話し合い、家族への感謝と家族の一員として役に立とうとする意欲を高めていく。読み物資料を読んで話し合う際には、児童の経験や様々な発想を生かして意見を交流し合うようにする。

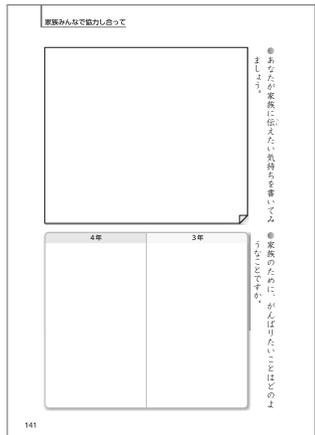
3 道徳の時間

（参観日などに、家庭や地域の人と共に考える）

- ①盲導犬について知る。
- ②資料「共に助け合って生きる」を読んで話し合う。
- 悩んでいたお母さんが、とうとう泣き出してしまったとき、みきたはどのような気持ちだったか。
- ・家庭や地域の人とグループになって話し合う。
- ・各グループから発表する。
- 資料と同じように家族の絆を感じたことについて語り合う。
- ・児童、家庭や地域の人、それぞれの立場で発表し合う。
- ③家族に伝えたい気持ちを一四一ページに書く。

◆ポイント

家庭や地域の人と一緒に、家族の大切さについて語り合い、家族に伝えたい気持ちを書き込み欄に書いて、協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な態度を育んでいく。



P.141

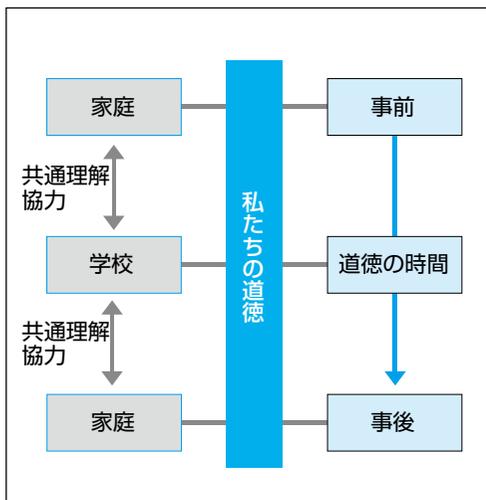
●家庭と連携した活用例

○学級通信等によって、次回の道徳の時間に読み物資料「ブラッドレーのせい求書」を活用して、家族愛に関する学習を行うことを家庭に伝え、学習への理解と協力を依頼する。

○道徳の授業前に、家庭で一三六・一三七ページに、家族の思いを聞いて書き込み、成長を見守り続けてくれている家族の大切さについて考える。

○道徳の授業後に、学級通信等によって学習内容や児童の感想等を発信するとともに、家庭で一四〇ページを読んで感想を話し合うなどの機会を設けてもらうよう促す。

【道徳の時間の事前・事後に生かす学校と家庭との連携】



家庭や地域との連携による活用事例

5・6年
P.98~109

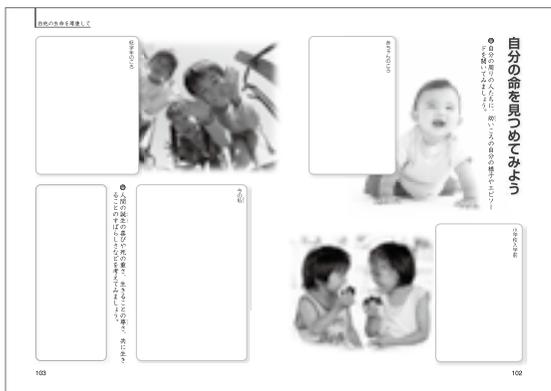
学習の流れ

1 家庭での学習

① 家族など自分の周りの周りの人たちに、幼い頃の自分の様子やエピソードを聞いて、一〇二・一〇三ページの書き込み欄に記入する。

◆ポイント

家族など身近な人の話を聞いて、自分の成長を見守ってくれている人の思いを感じ、自らの命の大切さや生きることの喜びを感じる。



P.102~103

3 命をいとおぼしめ

・ (1) 自他の生命を尊重してかけがえのない命

2 道徳の時間（家庭での学習を生かして）

① 幼い頃の自分の様子やエピソードについて、家の人などに聞いて書き込んだことを発表し合う。
 ② 読み物資料「その思いを受けついで」を読んで話し合う。
 ○ じいちゃん命が、あと三か月だと聞いたときの大地の思いはどのようなものだったか。
 ○ 大地は、どのような思いで毎日病院に行ったのか。
 ○ じいちゃんが大地の手を握り返してきたとき、大地はどのような思いだったか。
 ③ 命のかけがえのなさを感じたことを話し合う。

◆ポイント

死を題材とした読み物資料について話し合い、命の有限性とかげがえのなさを考え、命を大切にしようとする態度を育んでいく。



P.106

3 道徳の時間

（参観日などに、家庭や地域の人と共に考える）

- ① 東日本大震災についての事実を確認する。
- ② 資料「命でんでんこ」を読んで、命の尊さについて家庭や地域の人と話し合う。
 - 「命でんでんこ」に込められている思いは、どのようなことだと思いか。
 - ・ 家族や地域の人とグループになって話し合う。
 - ・ 各グループから発表する。
- 命の大切さを感じた経験には、どのようなことがあるか。
- ③ 命のかけがえのなさについて、例えば、特別救助隊員や医師、助産師などを招いて話を聞き、感想を話し合う。

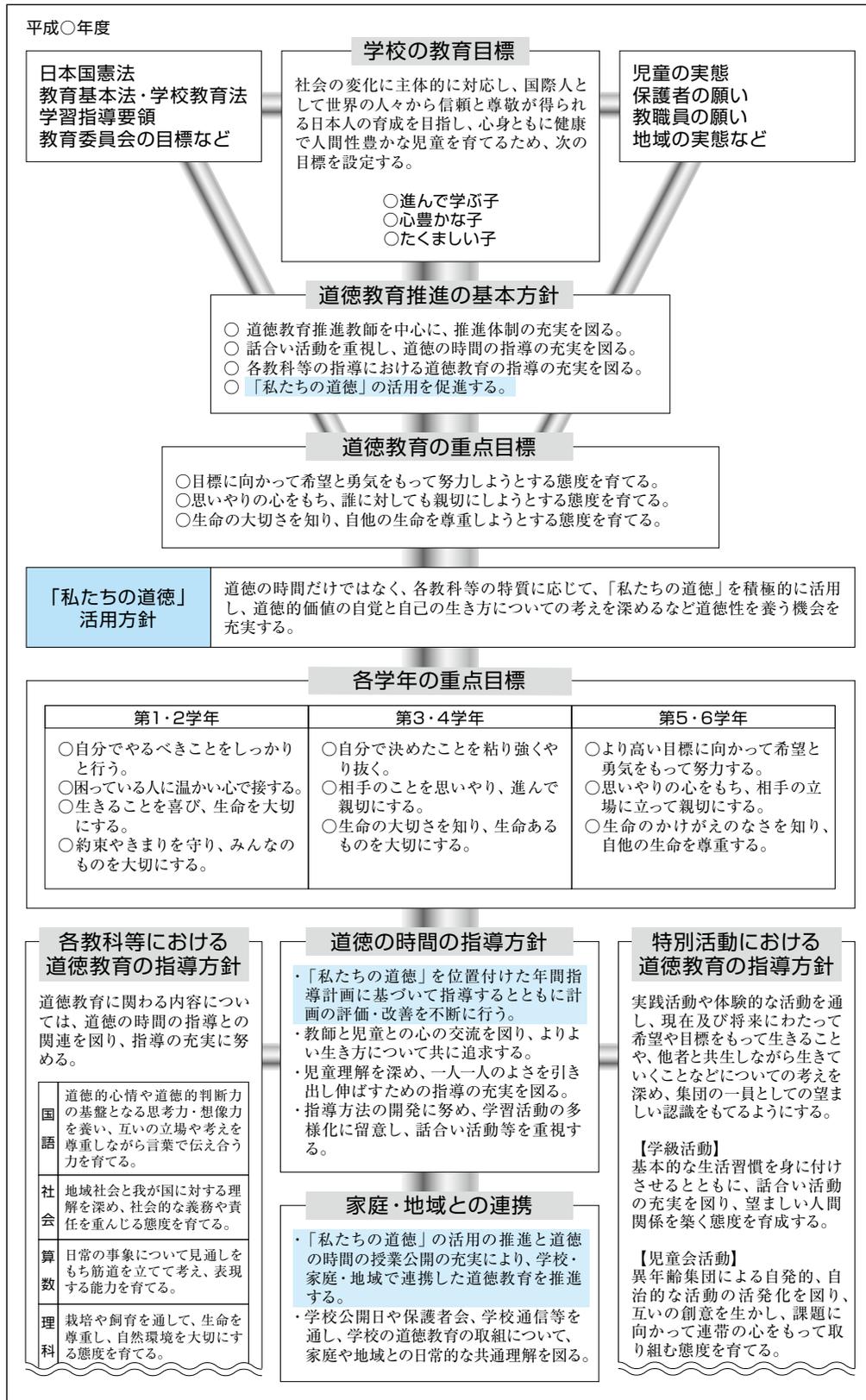
◆ポイント

命のかけがえのなさや大切さを身をもって体験した人、家庭や地域の人などの話を聞き、自分や他の人、全ての生き物にある命が、どれほどかけがえのない、いとoshいものであるかを考え、自他の生命を尊重しようとする態度を育んでいく。

● 家庭や地域と連携した防災学習における活用例
 家庭や地域の人の協力を得て、例えば、「命を守る」防災学習を行う際に、九十八から一〇九ページを活用することができる。
 「私たちの道徳」を活用した防災学習を通して、命を守るために大切なことを考えるようにする。

「命を守る」防災学習の流れ【例】

1	道徳の授業（1時間） 「猛火の中で」（文部省資料） ・ 地域のゲストティーチャータの話し （私たちの町の防災く命を守るために）
2	総合的な学習の時間（20時間） 「命のマップづくり」 ・ 地域の防災に関する課題を設定する。 ・ ハザードマップを見ながら、地域の人と一緒に町を歩くなどして地域の防災について調べる。 ・ 調べたことを基に、避難ルートマップを作成する。 ・ 地域の人にマップを配布し、説明する。
3	特別活動（学級活動・学校行事）（2時間） ・ 避難訓練の事前指導及び避難訓練
4	道徳の公開授業（1時間） 「命でんでんこ」（私たちの道徳） ・ 家庭や地域の人の参加型授業



3 「私たちの道徳」の活用について示した道徳教育の全体計画の例

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

1 「私たちの道徳」を位置付けた道徳教育の全体計画
 「私たちの道徳」の活用にあたっては、道徳教育の全体計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用方針や活用方法などについて、学校内で共通理解を図って活用することが望まれる。

全体計画への「私たちの道徳」の位置付けについては、学校の全教育活動を通じた「私たちの道徳」の活用方針、また、道徳の時間や各教科等のそれぞれの教育活動における「私たちの道徳」の活用方針、さらには、学校と家庭や地域との連携による「私たちの道徳」の活用方法を示すことが考えられる。

また、「私たちの道徳」をより効果的に活用していくために、活用状況等を振り返って、全体計画を見直し、工夫・改善を図っていくことが望まれる。

さらに、各教科等の指導計画などにも必要に応じて「私たちの道徳」の活用を盛り込み、全教育活動を通じて「私たちの道徳」の効果的な活用を図っていくことも期待される。

2 道徳教育の全体計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項
 ○ 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、学校内で共通理解を図って、全体計画に「私たちの道徳」を位置付けるようにする。

○ 学校の教育目標、道徳教育及び各学年の重点目標の下、学校の特色や実態、課題等に即して、「私たちの道徳」の効果的な活用の仕方などを考える。

○ 学校と家庭や地域との連携、また、小・中学校の連携などによる効果的な活用方法を考える。

○ 組織的で一貫性のある道徳教育を効果的に推進するために、「私たちの道徳」の活用状況等を振り返って、全体計画の評価と工夫・改善を図る。

● 「私たちの道徳」の活用に関する全体計画の評価の視点〔例〕

① 共通理解の下に、学校の教育活動全体を通じて効果的な活用が図られたか。

② 道徳の時間において、効果的な活用が図られたか。

③ 各教科等において、児童生徒の道徳性を養う視点から効果的に活用することができたか。

④ 生徒指導や体験活動などに効果的に生かすことができたか。

⑤ 家庭や地域との連携を深める視点から有効な活用が図られたか。

3 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳教育の全体計画」

道徳教育 重点目標	自他の生命を大切に、他者とよりよく生きようとする児童の育成
第2学年 重点目標	◎自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 1-(2) ・友達と仲よく助け合う。 2-(3) ・生きることを喜び、生命を大切にすることを。 3-(1)



	主な体験活動や実践活動	道徳の時間	その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生を迎える会 《道徳の内容との関連》2-(2) 2年生としての自覚をもち、新しく入ってきた1年生を温かい気持ちで迎えようとする。 ●挨拶運動 《道徳の内容との関連》2-(1) 誰にでも気持ちのよい挨拶を心を込めてできるようにする。 	2-(2) 思いやり・親切 『花のかんむり』 2-(1) 礼儀 『たびに出て』	*保護者会 保護者に「私たちの道徳」や道徳教育の重点について説明する。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●春の遠足 《道徳の内容との関連》4-(1) 約束やきまりを守り、安全に過ごすことができるようにする。 ●地域の清掃活動(クリーン運動) 《道徳の内容との関連》4-(2)、4-(5) 地域の一員として、地域をきれいにするために働く。 	4-(1) 公德心・規則の尊重 『黄色いベンチ』 1-(4) 誠実・明朗 『うそついちゃった』 4-(2) 勤労 『森のゆうびん屋さん』 1-(1) 節度節制・自立 『るっぺどうしたの』	*生活科 「町探検」
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会 《道徳の内容との関連》1-(2)、2-(3) 自分がやらなければならない演技や競技を一生懸命行い、友達と協力して最後までやり遂げようとする。 	3-(1) 生命尊重 『ハムスターの赤ちゃん』 1-(2) 勤勉・努力 『小さな力のかみかさね -二宮金次郎-』 2-(3) 友情 『ゆっきとやっち』	*人権週間
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●児童集会(縦割り班活動) 《道徳の内容との関連》2-(2)、2-(3)、2-(4)、4-(4) 友達と楽しんだり協力したりする活動を通して、下級生を思いやる心や上級生を敬う心をもつようにする。 	2-(2) 思いやり・親切 『はしの上のおおかみ』 2-(4) 感謝 『ごほうび』 4-(3) 家族愛 『心がほわっとしたよ』	*夏季休業の事前指導 規則正しく安全に、家庭で協力して過ごせるように指導する。

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(3) 主な体験活動や実践活動と道徳の時間の指導の時期を示した例(第二学年)

		1 主として自分自身に関する事	2 主として他の人との関わりに関する事	3 主として自然や崇高なものとの関わりに関する事	4 主として集団や社会との関わりに関する事
4月	道徳	【夢に向かって】 1-(2) 『ヘレンと共にーアニー・サリバンー』		【自然を大切に】 3-(2) 『自然のめぐみを共有して』	【よりよい学校に】 4-(6) 『校風をつくるのは私たち』
	各教科等	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事「始業式」 最高学年としての始まりに当たり、1年間の希望と目標をもつ。 ●クラブ活動 4・5年生と協力し合い、共通の興味・関心を追求する活動を通して自分のよい所を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級活動「人間関係づくり」 友達や自分のよさに気づき、よりよい学級をつくろうとする。 ●児童会活動「ふれあい給食・ふれあい遊び」 学校のリーダーとして下級生のことを考え、仲よく交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ●児童会活動「委員会活動」 全校のために意欲的に活動する。 ●学校行事「開校記念日」 〇〇小学校に愛着をもつ。(P.161)
5月	道徳	【節度、節制を心掛けて】 1-(1) 『ホームステイ』	【友達との信頼】 2-(3) 『ロレンゾの友達』	【生命を尊重して】 3-(1) 『その思いを受けついで』	【みんなの役に立つことの喜び】 4-(3) 『小川笠船』
	各教科等				<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事「運動会」 自分の役割を果たし、行事をつくり上げようとする。(P.140~141)
6月	道徳	【努力を続けて】 1-(2) 『夢に向かって確かな一歩を』		【自然を守ろう】 3-(2) 『自然をこよなく愛した人』	【差別のない社会を】 4-(2) 『マザー・テレサ』
	各教科等			<ul style="list-style-type: none"> ●理科「植物の養分と水の通り道」 植物の体のつくりと働きについての考えをもつ。 	
7月	道徳	【自由とは】 1-(3) 『うばわれた自由』	【寛容・謙虚の心で】 2-(4) 『ブランコ乗りとピエロ』		【世界の人々とつながって】 4-(8) 『ペルーは泣いている』
	各教科等				<ul style="list-style-type: none"> ●総合的な学習の時間「ワールドコミュニケーション」 世界の文化や生活を知り、世界の人々と交流しようとする。

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(2) 道徳の時間と各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を視点別に示した例(第六学年)

4 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳の時間の年間指導計画」

1 「私たちの道徳」を位置付けた道徳の時間の年間指導計画

「私たちの道徳」の活用にあたっては、道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用場面や活用方法などについて学校内で共通理解を図って活用することが望まれる。

「私たちの道徳」に掲載されている読み物資料、コラムや格言、書き込み欄などについては、道徳の時間の中心的な資料として活用したり、学習指導過程の一部で活用したりすることが考えられるが、内容等に応じて、発達の段階を考慮して計画的に活用していくようにしたい。

なお、「私たちの道徳」に掲載されている内容等は、二学年で割り振って活用するものや、二学年繰り返して活用するものなどを学年間で協議したり、共通理解を図ったりして計画的に活用することが重要である。

また、「私たちの道徳」をより効果的に活用していくために、活用状況等を振り返って、年間指導計画を見直し、工夫・改善を図っていくことが望まれる。



的指導や「私たちの道徳」の活用の仕方などについて共通理解を図って計画に位置付けていくことが大切である。

(2) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する

二年間の見直しをもって「私たちの道徳」を位置付けること、また、計画的に扱うことを基本としながらも、学級の実態や学級担任の創意工夫によって弾力的な取扱いも考えられる。

学級の実態等に応じて計画を変更する場合には、学校内での共通理解を図ることが望まれる。

(3) 計画の活用の工夫・改善を図る

年間指導計画が一層効果的に機能するためには、実践の振り返りに基づき、年間指導計画の評価と改善を行うことが重要である。年間指導計画には、「私たちの道徳」の活用状況や活用を通して気付いたことなどを書き込む欄を設けるなどして、年間指導計画の評価と工夫・改善を行っていくことが望まれる。

改善にあたっては、校内研修や学年会等で、「私たちの道徳」の活用の仕方について情報交換や研修等を行ったり、道徳教育推進教師や学年主任等が他の教師に指導・助言をしたりして「私たちの道徳」の効果的な活用についての研鑽を深め、よりよい改善を図っていくようにしたい。

(4) 計画に多様な指導方法を取り入れる

指導のねらい及び内容に基づいて、「私たちの道徳」を効果的に生かした指導、各教科等との関連を図った指導、道徳の実践に生かす指導、発達の段階に応じた指導

学習指導要領解説道徳編には、年間指導計画に明記しておくことが望まれる内容として、次の内容が示されている。

- (1) 各学年の基本方針
- (2) 各学年の年間にあたる指導の概要
 - ア 指導の時期
 - イ 主題名
 - ウ ねらい
 - エ 資料
 - オ 主題構成の理由
 - カ 展開の概要及び指導の方法
 - キ 他の教育活動等における道徳教育との関連
 - ク その他(保護者や地域の人々の参加・協力の計画等)

2 道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項

(1) 共通理解の下、見直しをもって計画を立てる

「私たちの道徳」の読み物資料等を二学年のうちどの学年で活用するのかを二学年間で検討し、各学年の年間指導計画に位置付ける。また、六年間を見通した重点

などについて多様な指導方法を取り入れた計画になるように工夫する。

● 年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付け、活用し、工夫・改善を図る取組〔例〕

- ① 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、主題の設定や配列、活用する資料等について二学年間で協議したり、共通理解を図ったりする。
- ② 年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項等に即して、各学年等で年間指導計画を作成する。
- ③ 作成した年間指導計画についての共通理解を図る。
- ④ 各学級では、年間指導計画に基づいた授業実践を行う。計画については、学級の実態や学級担任の創意工夫によって柔軟な扱いも大切にする。また、実践後は、気付いた点や変更した点などを計画に記しておく。
- ⑤ 学期ごとなどに年間指導計画の実施状況等について振り返り、共通理解を図ったり、今後の工夫・改善に生かしたりする。

月	週	主題名	自由と規律
6	3	資料名(出典)	うばわれた自由(私たちの道徳)
		ねらい	自由を大切に、自律的な行動をしようとする態度を育てる。
		展開の概要	
	1	自由に対するイメージを出し合う。	
	2	「うばわれた自由」を読んで話し合う。 ・ジェラルに堅苦しく考えるなど言われたガリューは、どのようなことを考えたか。 ・牢屋 <small>らうや</small> の中で、ガリューは、どのようなことを考えたか。 ・牢屋でジェラルの言葉を聞いたガリューは、どのような気持ちだったか。	
	3	自由と自分勝手をはき違えてしまった経験について話し合う。	
4	「私たちの道徳」P.28を読み、感じたことを意見交流する。P.29に自分が考える「自由」とは、どのようなものかを書く。		
	振り返り	導入段階で「私たちの道徳」のP.28～29を活用して、自由に対する考えを書き、終末の段階で、P.31の自由だからこそ気を付けなければならないことを書く活動の方が、ねらいに沿った展開になると思われる。	

(3) 展開の概要及び振り返りの欄に「私たちの道徳」の活用について示した例(第五学年)

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

月	週	主題名	内容項目資料名	ねらい	「私たちの道徳」の活用
4	1	よく考えて	1-(1) 少しでもなら(私たちの道徳)	よく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。(情報モラルに関連)	展開 P.16～19
	2	みんなへの思いやり	4-(1) あめだま(文部省)	みんなで使う場所や物を大切にしようとする態度を養う。	日常の指導 P.120～121 「気持ちよくすごすためのきまりやマナーを見付けよう」
	3	友達と力を合わせて	2-(3) 同じ仲間だから(私たちの道徳)	友達と互いに助け合い、協力しようとする態度を育てる。	展開 P.76～79 終末 P.75

(1) 主題等一覧に「私たちの道徳」の活用について示した例(第四学年)

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

月	週	主題名	社会のために
7	1	資料名(出典)	ほくの草取り体験(文部省道徳教育指導資料4)
		ねらい	勤労の意義を理解し、社会のために役立つ喜びを知って、公共のために進んで働くとする態度を育てる。
		展開の概要	
	1	学校内での自分の仕事について発表し合う。	
	2	「ほくの草取り体験」を読んで話し合う。(省略)	
	3	学校外で、社会や地域のために役に立とうと取り組んでいることについて振り返って話し合う。	
4	「私たちの道徳」P.154を読み、自分にできるボランティア活動を考え、P.155の書き込み欄に書く。		
		他の教育活動等との関連	
		総合的な学習の時間の、地域のボランティア活動などに関する探究的な学習において、「私たちの道徳」P.155の書き込み欄に、地域や社会のために何ができるかを記入する。 夏季休業などを活用してボランティア活動に参加し、P.155の「活動してみた感想」に記入したり、感想を交流したりする。	

(4) 展開の概要及び他の教育活動等との関連の欄に「私たちの道徳」の活用について示した例(第五学年)

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

5月	2週	主題名	優しい心で
資料名	はしの上のおおかみ	出典	私たちの道徳
ねらい	幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接しようとする態度を育てる。		
展開の概要	1	親切にされてうれしかったことを発表し合う。	
	2	「はしの上のおおかみ」を読んで話し合う。 ○ 動物たちを追い返しているおおかみは、どのような思いか。 ○ 意地悪をされた動物たちは、どのような思いか。 ○ くまに抱き上げられたおおかみは、どのような思いか。 ◎ うさぎを渡してやるおおかみは、どのような思いか。	
	3	幼い人や高齢者などに優しくした経験を想起して話し合う。	
	4	「たすけ合って生きる」(「私たちの道徳」P.68～69)を読む。	

(2) 展開の概要の欄に「私たちの道徳」の活用について示した例(第二学年)

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

3 「私たちの道徳」の活用について示した道徳の時間の年間指導計画の例